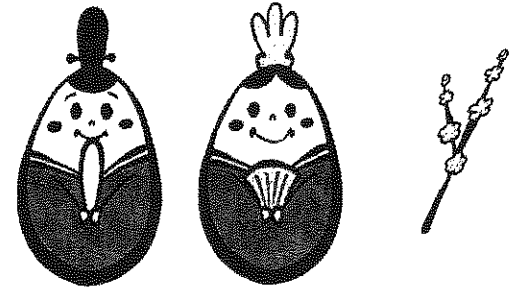


矢向あけぼの保育園だより 2024年度3月号

早春の息吹を感じる時期になりましたが、今年は寒の戻りが激しく春のたよりが遅く感じます。この気温差に体調を崩し、お休みの子どもたちも出ています。体調を整えながらも、年度最後の月を子どもたちの新たなスタートに繋げられるようつくっていきたいと思います。今年度も、たくさんのご協力いただきありがとうございました。



給食セミナーに参加して～コメ不足問題とは？～

2月22日(土)に、給食セミナーという研修に参加しました。コロナ流行以前は、毎年開催されていました。4年ぶりに再会ということで参加してきました。今回は、「食で育む子どもの未来」というテーマで、鈴木宣弘先生の講演でした。テレビなどでも日本の食の危機などを訴えている先生です。

今回、保護者へも給食費の値上げのお願いをすることになりましたが、先生の講演を聞き、このような問題はこれから益々増えていくのだと恐ろしくなりました。



《コメ不足問題》

コメ不足や物価高騰など、問題として私たちの生活を脅かしています。政府やメディアは、異常気象やインパウンドでの消費の増加、小麦価格の高騰で米食の増加、南海トラフ地震対策で米を備蓄する人が増えたなど色々な理由をあげているようですが、これが大きな理由ではない事です。大きくは、減反政策です。2018年にこの政策は廃止されていますが、補助金で生産を減少させています。もともと余裕のない生産をしてきたので需要と供給のバランスが少しでも崩れると、価格に大きな影響を及ぼす結果となります。欧米では、財政からの直接支払いという形で生産者と消費者を守ってきました。備蓄米も国民の1.5か月～2か月程度だというので、日本の食料自給率の低さが招いた結果ともいえます。

《食料自給率の実態》

コメ問題もありますが、食品の物価高騰も止まりません。食料自給率の低い日本は、輸入で賄っています。現状80%の野菜国産率ですが、種は、90%海外からの輸入です。種の多くは『F1』と言われるもので、次の種が取れても同じものがないので、一世代で終わる種です。物流が止まると、日本の自給率は、8%になり肥料も止まると4%になるそうです。世界的な食糧不足が起こり、物流停止で餓死者は日本に集中すると、鈴木先生はお話されていました。

円安・燃料価格高騰となれば、食品価格は自然とあがっていきます。環境問題で、食料も安定的に供給できないと予測される中、フードテックという技術で生まれた食品で、食料・飢餓問題を解決しようとしています。植物工場や無人農場は、すでに商品化され市場にも出ています。その他、人口肉・培養肉・昆虫食など遺伝子組み換え技術を活用しながら研究されているようです。私たちが知らない間に、食卓に並んでいるのです。食の文化や安全性などは、根本からなくなってしまうと思いました。このような事は、ニュースなどでは知らされません。多少高くても国産の物を買うことで、次世代まで安全な食の生産を続けていって欲しいと切に感じました。

これからも保育園での給食は、国産にこだわっていきたいと思います。

飯田 雅美